

郷里意識 育む貴重な出会い

南カリフォルニアからの風

12

岐阜県生まれ、と言っても嬰(えい)児の時だったから生活の記憶は無い。

三重県四日市で育ち、大学は名古屋で、新聞記者になって千葉→木更津→札幌と転動した。国会議員の秘書として東京に9年住んだ後、渡米。ロサンゼルス生活は四半世紀を越えた。

LAで多彩な岐阜人と出会った。県庁や県議会から視察や調査で渡米した人たちの歓迎パーティーを開いた。政治やビジネスや地方自治などアメリカ社会を彼らに語った。

そうした付き合いから岐阜を郷里とする意識が育まれたのだろう。

伝統的で地味な移民の岐阜県人会は老齢化していた。対照的に意欲満々のビジネス駐在員や遅(たくま)しい自営の人たち、ハリウッドで活躍するアーティストらが岐阜県クラブをスタートさせた。

グローバル時代の到来はちようどインターネットが一般に普及し始めた1990年代後半ではなかったか。グローバルとはローカルの広がりであり、その相

乗である。ぼくが会長となった時、岐阜県人会と岐阜県クラブの統一を提案し全会一致で了承された。今は若い人たちが活動の中心にいる。とても理想的な世代交代となった。

アメリカから一時帰国して、生誕地へ旅した。自分のルーツを探るような密やかなドキドキ感でローカル線に乗り込んだ。谷間を走る単線はくねくねと曲がっている。樹々が線路に覆いかぶさってくるような空間をトコトコ走り抜けた先が岩村駅だった。

町並みはタイムトンネルを潜(くぐ)り抜けたような遠い昔の風情がある。ウキウキした気分です。女城主」という名の地酒を売っていた。日本三

この谷間の城下町があった、今のぼくがいる。岐阜県人が太平洋を越えてアメリカに渡り1世紀の歴史を生きた。彼ら彼女らは岐阜と世界を繋(つな)ぐ貴重な存在となる。

今は大学の教壇に立っているぼくだが、カリフォルニアの仲間にもッセーシを贈りたい。「君らこそグローバル・プリッシなのだ」と。(文・北岡和義)



1996年11月に行われた岐阜県クラブの創立総会。岐阜出身のデザイナー河村尚江さんの作品を囲んでロサンゼルスホテル



きたおか・かずよし 19

41年、岩村町生まれ。南加岐阜県人会会長、ジャーナリスト、日本大学国際関係学部特任教授を経て2011年度から非常勤講師。69歳。

岐阜新聞130年 ◆ ふるさと再発見シリーズ